昭和五年六月廿六日第三種郵便物認可
昭和五年八月三十日發行




# 町村新報

發行日　毎月二回　十五日卅日
編輯兼印刷發行人　酒井秀吉
發行所　福島縣石城郡磐崎村大字下湯長谷勝善三十八番地
町村新報社
定價　一部金十錢　一ケ月金三拾錢
廣告料　五號活字十二字詰一行金二十錢　別色刷　四十錢


## 時事漫語

◆◆◆

財界の不振不況、國民死線上に彷徨するに方り政府は低利資金の融通を謀つて居る、誠に結構の事である然し實際と主旨とは必ずしも一致しない、見よ此の融資は如何に運用されるか、眞に困る商工業者や、下層農民には何等の價値も利益もない、第一借入條件に適合する者は未だドン詰り迄ゆかないものだ、如何に正直でも擔保物件がなければ借入が出來ない、申込もオイソレと簡單に出來ない、本當に困る者に恩惠を與へる樣一考を要する。

◆◆◆

一昔前に較べたら、各官署の事務取扱振りは雲泥の差である、官僚臭のあるものは時代遲れの感があり、人民には親切にすべきものとなつて居る、時たま不心得の官公吏なきにしもあらずだが、此等は問題でない程で苟も其に長たる人々はよく人民に接して呉れる、處が、民間の營利會社で、馬鹿に威張り散らして手に負ひぬものがある、沙汰の限りである、是れは少くも官公吏は普通以上に教育もあり素養もあり、人格もあるが一般會社の社員や職工には空威張りする無教育の人が多く、之が本當の社の營業方針をはき違ひる結果と思ふ、此頃諸所に電燈料値下げ問題が喧しいが一大電氣會社であり乍ら、虎の威をかる狐同樣、需要者を客とも思はず、我儘勝手を振舞ふ沒曉漢がある、公益を旨とし、特に國家の特殊保護をうけ、一つも需要家の便益を考へぬものがある、傲然と構え込んで、小むづかしい理窟をこねて居るなとは、虫唾がはしる、電氣は一日も早く縣營か國營にするに限る、目下經濟的合理化の第一歩は電力問題に在る

◆◆◆

磐城平町を中心として、新聞社、雜誌社がカナリある吾人は未だ其名を知らないが、社會の最尖端にある。文化的突端に位する、是等に何等連絡なく、各自勝手に振舞ひ、外に向つて團結的に相當權威あらしむる、何等をも見出し得ぬは不思議である、利害必ずしも一致せず、小理窟が多く結極害あつて利なき、組合等なきに如ざるか、當業者の一考を要する問題である、次に印刷業者に於ても亦然りである、同業者相倚り各その營業上利益增進を謀るべきに是亦個々の小我に沒頭して居る、識者よ、先覺者よ一發奮を期待する

◆◆◆

## ▼再勝の意氣昂し▲
## 湯本青年團選手

來る本月廿八日午前九時。磐中グランドに擧行する石城郡青年團第二回陸上競技大會に再勝の勢ひ物凄く出場する湯本青年團選手會合を廿五日夜同町小學校宿直室に行ふ。當夜選手並に幹部の意氣を訪ふべく午後八時訪ふ。

快く招がらるゝ室內には、熱血漲り鉄腕健脚の選手と溫顏愛撫に滿ちた篠原團長（校長）佐藤主席の兩先生外青年團幹部何れも必勝の意氣眉宇に溢れ、選手相互の攝生、競技前の注意事項、ざん新なる應援の計畫等萬善水も漏らさぬ其の陣容振りは戰はずして既に敵を壓倒して居る。

出場まい先生としての御感想はと篠原團長に問へば。『只優勝を期待するのみです』呵々と

選手何れも異口同音に『スポーツマンとして恥ぢぬ態度を以て正々堂々と戰ひに臨みます。

そして町とだんの名譽の爲石に嚙り付いても、榮ある優勝旗を保持する覺悟です』と凱歌高らかに喊聲街路に漲り再び優勝旗と赤色溢る選手の勇姿を期待して辞

官吏減俸問題に關し、東京の大新聞は反對に傾いて居る、其の第一は生活の脅威にある、而かも其新聞は物價の下つた事を認め、家賃の値下げを讃成し、そして地代の値下げは關せず焉て居る、今や商工業者農民何れも死生の淵に追ひまくられて居る、恩給もある、官位勳等級も得られる、寧ろ惠まれたる官吏獨り元の俸給を取るが正當といふ事は吾人の首肯出來ぬ事である國民は皆一列一体である、自分斗り晏如たるは、余り妙利に盡きる話しである。治者一人富み、被治者の死活問題を省みないとは、余りにも虫が好過ぎはせぬか

## 革新せる
## 湯本小學校同窓會
### 三函座に於て開催
### 會長比佐昌平氏を推戴す

時代は大衆を要求する秋在來僅かに一部分の人々にのみ依つて獨占と云ふ象にあり、それも年毎に衰退し此儘に行かば自然消失たる悲運にありし湯本小學校同窓會は今回當局者並に大方諸賢と議を練り、從來と面目を一變し廣く大衆的意味に於て會長を同窓生中の最人格者代議士比佐昌平氏副會長を學務委員、町議比佐賢司氏に推戴するや、老若男女年齡の如何を問はず競ふて參加するもの、實に六百有余名、其の盛況を祝し、本社は祝賀の微意を表して、新聞を寄贈したるに幹事長長谷川訓導快く受納せられ、創立開會式廿六日叮重なる招待に接す。

當日午後六時會場三函座へ臨む。

×

開會の辭終りて議事に移るや終始拍手を以て滿場一致和氣靄々の裡に議決す

幹事左のごとし

總裁　篠原校長
會長　比佐昌平氏
副會長　比佐賢司氏
顧問　教育界の功勞者町の名士有望家等
幹事長　長谷川訓導
幹事會計　町青年團員

當夜會長は公務繁忙の折なれど、常に責任感任の深き氏はわざ〳〵會津方面より來湯せしなりと。

會長の講話終りて茶菓余興となるや、音樂、劇、琵琶映畫等來賓會員の耳目を樂しませ、眞に盛況裡に午後十時閉會す。

因に會長は政界の人なるが故に一部分より中傷的に政黨の具に倚せらるゝやとの反感あらずやと疑念を抱きたるもそは單なる紀憂に過ぎず、何れも理解を以て迎へられたるは慶賀に堪えざる所なり。今後の發展また見るべきであろうと。

左はだんの應援歌

### 應援歌

一、紅き血潮に燃ゆる意氣
如何なる敵をも怖れず
玉と碎けて行く選手
見よ堂々の武者振を
湯の嶽颪ふく所
炎帝鐵をとかす時
鍛えに鍛えしこの腕を
現はす時は今なるぞ
力の限り戰ひて
名譽の旗風ひるがへし
我等の意氣をかゞやかせ
フレ湯本フレ湯本フレ〳〵
四、頑張れ〳〵我が選手
彼弱小が何かせん

二、起て〳〵奮へ我選手
三、胸は躍るよ
鬪ひの日は來れり
曉の空
進軍の鐘は響く
輝くいさを
勝利は常に我がもの
映ゆる歷史に
仇なす敵はあらじ
讃へよたけき
雄々しき戰士の姿
是ぞ我等が
强き誇陸の雄
進めよ戰士
行けよ常勝の勇士
汝を飾るは
永き榮光の歷史

熱血應援是にあり
武者振り見事に蹴散らせ

×　×


町村新報社
綴支部創立
支部長　沼田紅葉
編輯長　箱崎高義
幹事長兼會計　鈴木八重智
申込所　上綴十八番地　鈴木八重智
右支部創立しましたから御後援を願いたい
町村新報社

開業御披露
現代的民衆食堂
親切迅速本位
カフエー　モダン
湯本座通